



広報の取組について

令和 8 年 1 月

シンポジウム

“情報”の力で備える 感染症危機

～見えないリスクを捉え、
わかりやすく伝えるために～

参加費
無料

事前申込みが
必要です

本シンポジウムでは、感染症の早期発見と情報の収集・分析により迅速なリスク判断を行なう「感染症インテリジェンスの構築」と、そのリスク情報と見方の共有を目指す活動である「リスクコミュニケーション」という2つのテーマを軸に、政府や専門家の取組を紹介しながら、感染症リテラシーを高めるための議論を行ないます。
「情報の力」がどのように私たちを感染症から守っているのか。
その理解を深める場に、ぜひご参加ください。

2026年2月9日(月)14:00~16:00

オンライン参加 (YouTube Live)

参加費 | 無料 事前申込みが必要です。申込み方法は裏面をご覧ください。

申込み期間 | 2026年1月7日(水)～2026年2月6日(金)

主催



内閣感染症
危機管理統括庁

シンポジウム

“情報”の力で備える感染症危機

～見えないリスクを捉え、わかりやすく伝えるために～

● 14:00 主催者挨拶



城内 実 / 感染症危機管理担当大臣

● 14:05 主催者説明

「内閣感染症危機管理統括庁の取組とJIHSへの期待」

眞鍋 馨 / 内閣官房 内閣感染症危機管理統括庁 内閣審議官

● 14:15 基調講演

「感染症インテリジェンスのハブとしてのJIHSの役割」

～JIHS設立から11か月の取組状況～



國土 典宏 / 国立健康危機管理研究機構(JIHS)理事長

1981年東京大学医学部卒業、同第二外科、米国ミシガン大学外科留学を経て1995年癌研究附属病院外科。2001年より東京大学肝胆脾外科助教授、2007年に教授に昇任し、2017年国立研究開発法人国立国際医療研究センター理事長。2025年国立感染症研究所と組織統合し新機構の理事長に就任。日本外科学会理事長、世界肝胆脾学会(IHPBA)会長、日本医学会連合理事を歴任。内閣府健康・医療戦略参与、同世代型社会保障構築会議構成員、医道審議会医師部科会長、東京大学名誉教授・経営協議会委員。

● 14:30 休憩

● 14:40 パネルディスカッション



モダレーター 福田 充 / 日本大学危機管理学部 学部長・教授

1969年、兵庫県西宮市生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士(政治学)。専門は危機管理学、リスクコミュニケーション、テロ対策、インテリジェンスなど、内閣官房等で防災、テロ対策、国民保護に関する委員、内閣官房新型インフルエンザ等対策有識者会議委員などを歴任。著書に『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』(平凡社新書)、『新版・メディアとテロリズム』(新潮新書)、『政治と暴力～安倍晋三銃撃事件とテロリズム』(PHP新書)など多数。

パネリスト



斎藤 智也
国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所
感染症危機管理研究センター長



町田 優代
内閣官房
内閣感染症危機管理統括庁
内閣審議官



奈良 由美子
放送大学教養学部
教授



眞鍋 馨
内閣官房
内閣感染症危機管理統括庁
内閣審議官



三崎 貴子
川崎市健康安全研究所
所長



鷲見 学
厚生労働省
健康・生活衛生局
感染症対策部長

● 16:00 閉会

申込みフォーム

参加をご希望の方は下記URLまたはQRコードの申込みフォームからお申込みください。
申込みフォーム：<http://secure-cloud.jp/sf/business/1766018794vVYPPUPd>

申込み期間 2026年1月7日(水)～2026年2月6日(金)

お問い合わせ先：内閣感染症危機管理統括庁主催シンポジウム事務局 メール：sympo@caicm-sympo.jp



統括庁主催シンポジウム

“情報”の力で備える感染症危機 ～見えないリスクを捉え、わかりやすく伝えるために～

テーマ：「感染症インテリジェンスの構築」&「リスクコミュニケーション」

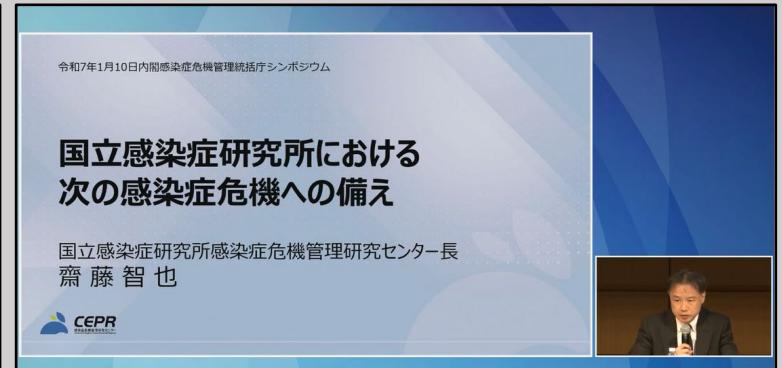
開催日時：2026年2月9日（月）14:00～16:00

参加方法：オンライン参加（YouTube Live）

申込期間：2026年1月7日（水）～2月6日（金）

申込方法：統括庁HP、リーフレット記載のURL・QRコードから申込み

（URL：<http://secure-cloud.jp/sf/business/1766018794vVYPPUPd>）



写真は前年度開催の様子（2025年1月10日開催）

各都道府県の感染症対策担当の皆様の積極的な御参加とともに、市区町村や関係機関への周知もお願いします、

Q&A冊子の作成

- ・感染症危機への対応等に関する国民の理解を促進するため、平時から分かりやすい情報を適時適切に国民へ提供することを目的として新型インフルエンザ等対策政府行動計画の内容等を紹介する冊子を作成。
- ・政府行動計画のポイントや感染対策、感染症危機時における身近な疑問について、Q&A形式の冊子としてまとめたもの。

いまから備える 次の感染症危機

—私たちができること、知っておきたいこと—

CAICM 内閣感染症危機管理統括厅
令和7年11月発行

▶ 画像クリックでページへ飛びます

目次

Chapter 1 なぜ、いつ起るか分からない感染症危機に備えるの？

- Q1 次の感染症危機に対する備えは必要ですか？
Q2 感染症危機への対応として、なぜ新型インフルエンザ等に特に備える必要があるのでしょうか？



Chapter 2 感染症危機に、政府はどう備えているの？

- Q3 感染症危機に対応する国の備えはどうなっていますか？
Q4 政府行動計画とは何ですか？



Chapter 3 感染症危機に関して平時からできること、知っておきたいことは何？

【情報の収集・発信】

- Q5 海外の感染症情報など、政府の情報収集・共有は万全ですか？
Q6 感染症に関する正確な情報はどこで手に入りますか？



【普段からの備え】

- Q7 感染症予防のためにどのような対策をとったらいいですか？
Q8 次の感染症危機に備えて、普段からどのようにして留意すればよいでしょうか？
Q9 マスクの備蓄はどのようになっていますか？

【感染症危機の対応とそのための備え】

- Q10 感染症危機時に、症状があるときはどうしたらいいですか？
Q11 感染症危機時に、検査を受けることはできるでしょうか？
Q12 感染症危機時に、治療薬は速やかに利用できますか？
新型インフルエンザはどのようにして治療するのですか？
Q13 感染症危機時に、入院できますか？
Q14 感染症危機時に、ワクチンは速やかに受けられますか？
新型インフルエンザのワクチンはどのようなものでしょうか？

【緊急時の対応と差別や偏見への対応】

- Q15 緊急事態宣言とは何ですか？ まん延防止等重点措置とは何ですか？
これらの事態のとき、私たちはどうしたらいいですか？
Q16 感染症危機時に、感染者や医療従事者、その家族などが、差別や偏見にあわないか不安です。
どこに相談したらいいでしょうか？

掲載ページはこちら：<https://www.caicm.go.jp/houdou/documents/index.html>

各種取組等を実施する際にはぜひ御活用いただくとともに、市区町村や関係機関への周知も併せてお願ひします。▶

キッズページの公開

- ・ こどもに対する分かりやすい情報提供・共有を行うことを目的として、キッズページを新設。
- ・ 感染症の基礎知識や統括庁について、こどもとその保護者がわかりやすく学べる内容。

かんせんしょう 感染症から みんなをまもるために。 やさしくまな 学べる キッズページ

かんせんしょう きそちしき たいさく
感染症の基礎知識や対策を、わかりやすくまとめました。

かんせんしょう きそちしき
感染症の基礎知識

かんせんたいさく
感染対策

しんがた
新型インフルエンザとは？

ケイクムとは？

かんせんしょう かた 感染症のおこり方

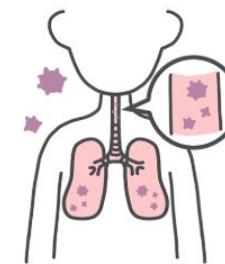
さいきん ひょうげんたい はな くち からだ なか はい
ウイルスや細菌などの病原体が、鼻や口などから体の中に入る。

① ひょうげんたい からだ なか はい
病原体が体の中に入る



ひょうげんたい かんき ねる へや くうきゅう
病原体は、換気が悪い部屋の空気中にう
いていることがある。
また、自分の手に病原体がついている
ことに気づかずに、目や鼻、口をさわってし
まい体の中に入ることもある。

② はい なか ふ
のどや肺の中で増えていく



からだ なか はい ひょうげんたい はい なか
体の中に入った病原体は、のどや肺の中で
増えていく。

③ しょうじょう で
症状が出ることがある



ねつ で
熱が出たり、せきが出たりすることがある。

掲載ページはこちら：<https://www.caicm.go.jp/kids/index.html>

各種取組等を実施する際にはぜひ御活用いただくとともに、市区町村や関係機関への周知も併せてお願ひします。!

薬剤耐性 (AMR) 対策普及啓発

- 「薬剤耐性(AMR)」とは、特定の種類の抗菌薬や抗ウイルス薬等の抗微生物剤が効きにくくなる、又は効かなくなることをいう。
- 1980年代以降、人に対する抗微生物薬の不適切な使用等を背景として、薬剤耐性菌が世界中で増加。薬剤耐性菌の発生をできるだけ抑えるため、世界的な対応が求められている。
- 内閣感染症危機管理統括庁では、薬剤耐性(AMR)に係る全国的な普及啓発活動を推進するため、関係省庁や賛同団体の取組を紹介するほか、今年度は抗微生物薬が処方される機会の多い小児とその保護者を対象とした普及啓発資材(マンガ)を作成するとともに、都内の商業施設でイベントを実施。

感染症の種類と統括庁の役割 (イメージ)

感染症の例	頻度	影響
新型インフルエンザ 新型コロナ 等	数年～数十年 に1度	1918-1920年スペイン風邪での死者数：38万人 2002-2003年SARSでの死者数：774人（全世界） 2009年新型インフルエンザの死者数：200名程度 2019-2023年新型コロナの死者数：75,000名程度
エボラ マールブルグ 等	国内未発生	エボラの致死率は25～90% マールブルグの致死率は24～88%*6
AMR感染症 (薬剤耐性結核 等)	将来、拡大 するおそれ	何も対策を講じない場合2050年には 世界で年間1,000万人が死亡すると推計



↗ 画像クリックでページへ飛びます

関連ページはこちら：<https://www.caicm.go.jp/action/amr/index.html>



写真はイベントの様子（2025年11月24日開催）